

第 1 章

短文の翻訳 1

第 1 章 短文の翻訳 1

(「技術翻訳基礎コース」第 1 回課題の解説)

[問題 1] 1. 調整パネルのボリュームを廻して電圧を 10V にセットしてください。

(訳例 a) 1. Turn the knob of the control panel to set the voltage at 10 V.

1. Turn : ピリオドの後には必ずスペース 1 個を入れます。日本語の場合「1. 調整パネル～」のように 1 の後のピリオド (点) が全角文字になりますのでスペースは必要ありませんが、英語の場合には半角なのでスペースが必要です。

knob : 日本語のボリュームはここでは調整つまみのことなので volume とそのまま訳さず、knob にしたのは賢明です。しかし、knob だけでは意味が通じづらいので adjusting knob くらいが妥当でしょう。

of : 「調整パネルの」の意味で of the control panel としていますが、実際は「調整パネル上の」という意味なので of ではなく on の方がより適切です。

at : 「10V にセットする」ということは 10V が目的地なので、目的地を表す前置詞である to を使うのが正しい形です。at にしてしまうと at はあるポイント (場所または時間) での位置を表すので、例えば Set the voltage at 10 V にしてしまうと、「10V の時に電圧を調整しなさい。(何 V に調整するのかは分からない)」の意味になってしまいます。

(訳例 b) 1. Turn the adjusting knob on the control panel, and set the voltage to 10v.

, and : and で文章を切ってしまうと前半の「ボリュームを廻しなさい」という命令と、後半の「電圧を 10V にセットしてください」という命令が別物になり、結果として 2 つの動作を指示する内容になってしまいます。原稿は「ボリュームを廻したら電圧が変化するので 10V になるまで廻してください。」という意味なのでこれでは意味が変わってしまいます。(訳例 a) のように to を使用して文章を続けるべきです。

10v : 数値と単位間には半角スペースを入れるのが基本です。これは国際単位系 (SI) のルールで定められています。ただし日本語の文章の中に数値と単位が登場する場合、半



図 1. 調整パネル

角のスペースを入れると読みづらくなり、文字化けの原因になったりするのでスペースを省くことが普通に行われています。

これは日本語が全角文字であることが主な要因です。半角文字である英文中ではスペースを入れるのが原則です。

技術解説

単位表記 (SI ルール) について

電圧の単位である V は大文字が正しい形です。SI ルールでは「単位は原則として小文字とするが、人名などの固有名詞に由来するものは大文字にする。」と決められています。電気の世界では V のほかに電流の A、電力の W、周波数の Hz など大文字のものが多くあります。翻訳中に単位が出てきたら「単位の辞典」などで正しい単位表記を確認し、たとえ原稿内で間違っただけでも正しい形で表記してあげるのが翻訳者としての正しい心構えです。

(訳例 c) 1. Turn the adjusting knob on the control panel to "10 V".

to "10 V": この英文では「ボリュームを "10 V" と表示されているポイントまで廻しなさい。」というニュアンスになっています。はたしてそうでしょうか？ボリュームには何の表示も無く、別の場所にある電圧計に 10V と表示されている可能性が高いと思います。よってこの英訳は少々「思い込みの激しい」翻訳と言わざるを得ません。また最後に「”」(アポロストロフィ) と「。」(ピリオド) が来る場合、"10 V." のようにピリオドが内側に來るのが正しい形です。

(訳例 d) 1. Turn the adjusting knob on the control panel to set a voltage to 10 V.

a voltage: 電圧 (voltage) に付ける冠詞の問題ですが、この文章はある特定の機械 (システム) の調整方法について述べた説明の一部だと思われます。機械の中には多くの回路があり、それぞれの回路の電圧は異なっているのが普通です。よってここではある特定の回路の電圧調整方法が述べられているはずですから、不定冠詞の a ではなく定冠詞の the がふさわしいでしょう。

(訳例 e) 1. Turning the adjusting knob on the control panel, set the voltage to 10 V.

これは分詞構文の形をとった正しい文章です。この文章の形は工業英語 (技術翻訳) ではよく使われます。ニュアンス的には「調整パネル上の調整ノブを廻すことにより、電圧を 10V に調整しなさい。」ということになり、適切な表現です。

(訳例 f) 1. Set the voltage to 10 V by turning the adjusting knob on the control panel.

Set：これは「ボリュームを廻す」ことよりも「10Vにセットする」ことに主眼を置いて訳した例です。この文章自体は正しい形です。Turn で始める文とどちらが良いかということは一概には言えません。前後の文脈からどちらをより強調するかを判断し、それにより Set で始めるか、Turn で始めるかを決めなくてはなりません。

(訳例 g) 1. Turn the adjusting knob on the control panel to set the voltage to 10 V.
これも自然な発想の正しい翻訳文章です。

【問題 2】 測定器の汚れ、傷、損傷を点検しなさい。

(訳例 a) Check if there are no stains, scratches and damages in the measurement tool.

Check if：check if という表現は最近の翻訳の現場ではあまり使いません。check that が標準的な使い方です。check if を使うのであればそれに続く no stains は any stains にしなくてはなりません。

scratches and damages：scratches and damages の scratches と and の間にカンマ (,) が必要です。A, B, and (or) C の形が標準です。工業技術英語以外の世界ではこのカンマは付けないのが普通ですが、工業技術英語（英文テクニカルライティング）の考えでは A, B, C をそれぞれ独立したものとして認識してもらうには C の前にカンマがあった方が分かりやすいという考え方です。

in：「測定器の表面に」という意味ですから in ではなく on が適切です。

measurement tool：測定器は measuring instrument です。（measuring tool でも OK ですが、instrument の方がぴったりきます。）measurement ではありません。しかし測定値は measurement value、測定条件は measurement condition です。同じ「測定」という名詞の形容詞的使い方ですが、instrument が measure するので measuring instrument となり、value や condition は measure しませんので measuring は使えません。measurement を使います。

以上を考慮して訳例を修正すると以下ようになります。

Check that there are no stains, scratches, or damages on the measuring instrument.

(訳例 b) Check that the measuring instrument does not have any dirt, flaw, or damage.

正しく、かつ理解しやすい訳文ですが、文章が少し長すぎてすっきりしません。

「何々について、何々をチェックしなさい。」の形はマニュアルの中でよく登場します。この形の文章を簡潔にスッキリ処理する方法に Check + 物 + for… の構文が便利です。

この構文を使って上の訳文を直すと以下ようになります。

Check the measuring instrument for any dirt, flaw, or damage.

[問題 3] 機械の点検を実施しなさい。

(訳例 a) Carry out the machine check.

(訳例 b) Perform the inspection of the machine.

原稿に忠実に訳してあり、正しい英訳です。

しかし「可能な限り短く、分かりやすく」という英文テクニカルライティングの考えで行けばさらに改善が必要です。文頭の carry out は perform などと同じく「間接的な動詞」です。この間接的な動詞を使えば文章は作りやすくなりますが、一般的に冗長な（長たらしい）文章になってしまいます。間接的な動詞ではなく、直接的な動詞を使うと文章が引き締まり、より分かりやすくなります。この文で言えば「点検」という名詞を「点検する」という動詞に変えて使うとスッキリした文章が作れます。書き直してみると以下ようになります。

Check the machine.

Inspect the machine.

原稿の内容とニュアンスから少し離れてしまいますが、このくらいの乖離は問題ないでしょう。短く分かりやすいほうが優先です。